



お子さんへの薬の飲ませ方

今回はお子さんへの薬の使い方についてご紹介します。

乳児（1歳未満）

粉薬：1回分を1〜2杯の水や白湯によく混ぜ、スポイトやスプーン、哺乳瓶の乳首などでお子さんの吸い付く動きに合わせて、少量ずつ飲ませます。少量の水で練り、ペースト状にして指先に付け、頬の内側や上顎に塗る方法もあります。口の中に薬が残っていると苦味などが出ることもあるため、服薬後、水や白湯などを飲ませます。服薬ゼリーを使う場合は、ゼリーで粉薬を包み込むようにしましょう。薬の味でミルク嫌いになることがあるので、ミルクに混ぜることはやめましょう。

てください。飲んだ後は、水や白湯などを飲ませます。

幼児（1歳から小学校入学前）

薬の必要性を分かりやすく説明して、子どもと相談しながら飲みやすい方法を選ぶこと、飲めたらほめるようにすることが大切です。甘いものが好きな子はアイスクリームやヨーグルト、コンデンスミルクなど、反対に苦手な子はぬるめのみそ汁やコーンポタージュ、のりの佃煮などに混ぜることで苦味をカバーすることができます。乳児と同じく服薬ゼリーも有効です。

小学生以上

お子さんに粉薬や錠剤を自分で選ばせて、「自分が決めたもの」という

意識を持たせると、しっかりと飲むことが多いです。

坐薬の使い方

熱性けいれんの時には、坐薬を使う順番と空ける時間が重要です。一般的には37・5℃以上の発熱を目安にけいれん予防の坐薬を先に使用し、30分以上の間隔を空けてから解熱剤の坐薬を使用します。熱が続いていたら原則8時間後に2回目を使用します。なお、8時間後に熱が下がっている場合、2回目の使用については医師の指示を確認してください。

坐薬を1回に2分の1本など医師から切って使用するよう指示がある

場合があります。2分の1本使用する場合は、開封前に斜めに切断、3分の2本使用する場合は、後ろの（細い方から）3分の1の部分を手方向に切り落とし、どちらもとがっている方（太い方）から使います。はさみよりもカッターやナイフの方が正確に分割することができます。

点眼薬の使い方

目薬は、下まぶたを軽く下に引き、1滴を点眼した後にはまぶたを閉じ、まぶたを閉じます。あふれた液を清潔なガーゼやティッシュペーパーで拭き取った後、少しの間（できれば1分位）目を閉じていた方が浸透します。原則開封後1カ月以上

最後に

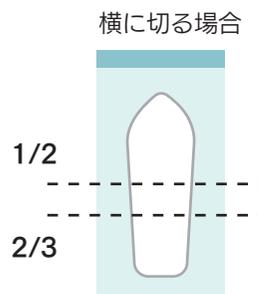
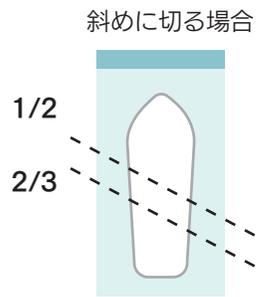
薬の種類によっては、混ぜると苦味が出るもの、有効成分が変化してしまうものなどがあるので、薬剤師のアドバイスを受けてください。漢方薬は苦味とザラザラした舌触りで飲みにくいと思われがちです。

経つたものは雑菌の繁殖等があるので、それ以前に開封した目薬は使用しないでください。また、お子さんが固く目を閉じて嫌がる場合、寝ている時などにサッとさすのがいいですよ。

が、私の経験では意外と小さい子の方が飲めると感じます。薬について理解が少ない子どもにとって、慣れない味やおいのおいよく分らないものを無理やり口に入られる経験は苦痛で、恐怖となってしまうと思います。薬を飲むと体が楽になることが分かったら、自分から進んで飲むようになることもあります。子どもにも分かる言葉で説明し、子どもが薬を飲む体験を将来に向けたプラスの体験にできるように関わっていきましょう。

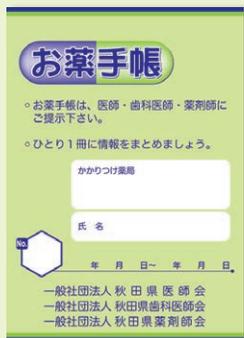
（つくし薬局 かつの店）

小笠原文恵



※坐薬を切って使う指示がある場合は包装を開ける前に、清潔なはさみやカッターを使いましょう。

くすりの「安全な服用」 まずは、お薬手帳の 提示から！



お薬手帳

処方せんの有効期限は
処方日を含めて4日間です。

秋田県薬剤師会

秋田市千秋久保町6-6 TEL.018-833-2334
E-mail info@akiyaku.or.jp http://www.akiyaku.or.jp